

成人	WBC数は普通体重、喫煙を止めたか又は喫煙経験の無い被験者で有意に低い	2008	Having More Healthy Practice was Associated with Low White Blood Cell Counts in Middle-aged Japanese Male and Female Workers	Otsuka R et al	Industrial Health	46巻4号 Page341-347
成人	味覚障害の原因別頻度は、特発性(原因不明)(56%)、亜鉛欠乏(16%)、風味障害(15%)、感冒(8%)の順となる	2007	嗅覚、味覚障害に関する調査研究	愛場庸雅、他	大阪市勤務医師会研究年報	34号 Page177-181
成人	我が国のうつ病の経験者中、医療機関を受診した者は27%(うち精神科医を受診した者は14%)と、アメリカに比べて約半分である	2006	疫学 世界のうつ病、日本のうつ病 疫学研究の現在	川上憲	医学のあゆみ	19巻13号 Page925-929
成人	ペインクリニックを受診する頻度の最も高い膝関節疾患は変形性膝関節症であり、中高年以上の女性に多くみられる軟骨の退行変性疾患である	2004	膝関節に起因する痛み 変形性膝関節症を中心に	池田浩	ペインクリニック	25巻10号 Page1304-1310
成人	現在習慣的に喫煙している者の割合は、男性で46.8%、女性で11.3%	2003	平成15年国民健康・栄養調査結果	厚生労働省		
成人	食塩摂取量は年々減少している	2003	平成15年国民健康・栄養調査結果	厚生労働省		
成人	全ての年齢層において女性の食塩摂取量は男性よりも少ない	2003	平成15年国民健康・栄養調査結果	厚生労働省		
成人	ストレス解消法として、趣味、テレビドラマ、友人に相談などが多い。特に男女間で差がみられる解消法は男性では酒をのむ、タバコを吸うであるのに対し、女性では家族や友人に悩みを聞いてもらう、楽観的に考える、食べるであった。	2008	平成19年国民健康・栄養調査結果	厚生労働省		
	女性の慢性腎臓病は脳梗塞の危険因子となる	2009	【久山町研究2009 Update】CKDの発症要因と予後	永田雅治、他	医学のあゆみ	228:281-284
19-64	女性では損失寿命に対しコホートの影響は小さく、むしろ全死因と脳血管疾患死亡に対する時代の影響が特徴であった	2003	Age-Period-Cohortモデルによる日本人中高年の損失寿命に関する分析	小田切陽一	厚生労働省	50巻11号 Page7-13
>20	過活動膀胱の定義による尿切迫感と頻尿の2症状の有症率は20歳以上の女性の54%に存在し、加齢に伴い漸増および重症化傾向を示した	2008	インターネットを用いた成人女性の過活動膀胱に関するアンケート調査	加藤昌生、他	西日本泌尿器科	70巻9号 Page473-478
	リウマチ様関節炎は独立した死因となる	2005	Mortality of rheumatoid arthritis in Japan: a longitudinal cohort st	Hakoda M, et al	Ann Rheum Dis	64(10):1451-1455

1438A/Gの遺伝子多径は日本人の生活習慣病発生の予測因子である

The -1438A/G polymorphism in the 5-hydroxytryptamine receptor 2A gene is related to hyperuricemia, increased gamma-glutamyl transpeptidase and decreased high-density lipoprotein cholesterol level in the Japanese population: a prospective cohort study over 5 years.

Suwazono Y, et al  
Int J Mol Med 17(1):77-82

高尿酸血症は高血圧症の発症予測因子となる

Hyperuricemia as a predictor of hypertension in a screened cohort in Okinawa.

Hypertens Res 27(11):835-41

脳卒中の死亡は都会よりも地方の方が高い

Baseline cardiovascular risk factors and stroke mortality by municipality population size in a 19-year follow-up study—NIPPON DATA80

Nishi N  
J Epidemiol. 18(4):135-43

大量の飲酒習慣は女性の心疾患の死亡を高める

Alcohol consumption and mortality from stroke and coronary heart disease among Japanese men and women: the Japan collaborative cohort study

Ikehara S, et al  
Stroke 39(11):2963-42

1970から1990年にかけて中高年におけるビタミンA,C,Eの摂取量は増加した

Trends in dietary intakes of vitamins A, C and E among Japanese men and women from 1974 to 2001

Kato Y et al  
Public Health Nutr 14:1-8

カルシウム摂取量は脳卒中の発生と逆相関するが虚血性心疾患とは相関が無い

Dietary calcium intake and risks of stroke, its subtypes, and coronary heart disease in Japanese: the JPHC Study Cohort

Umedsawa M et al  
Stroke 39(9):2449-56

ナトリウムの過摂取とカリウムの低摂取は心血管疾患に寄る死亡を増加させる？

Relations between dietary sodium and potassium intakes and mortality from cardiovascular disease: the Japan Collaborative Cohort Study for Evaluation of Cancer Risks  
Umehara M, et al  
Am J Clin Nutr 88(1):195-202

50-59歳は子宮体がんの罹患率が高い。(29.4人/人口10万人)

2002 地域がん登録全国集計 がんセンター

>45 腹部肥満は高血圧症のリスク因子である

Incidence of hypertension in individuals with abdominal obesity in a rural Japanese population: the Tanno and Sobetsu study.  
Ohnishi H et al  
Hypertens Res. 31(7):1385-90

>40 両親における脳卒中中の家族歴は有意の関連がないが高血圧の家族歴は有意の関連があった

Stroke risk and antihypertensive drug treatment in the general population: the Japan arteriosclerosis longitudinal study.  
Kadota Aya et al  
J Hypertens. 27(2):357-64

>40 日本人の心房細動の頻度は欧米人に比べ少ない。心疾患(OR 9.00)、慢性腎疾患(OR 1.76)、男性(OR 1.59)、糖尿病(OR 1.46)と独立に関連しているが、高コレステロール血症はAFでないことと高度に関連していた(OR 0.54)。

Prevalence of atrial fibrillation in community-dwelling Japanese aged 40 years or older in Japan: analysis of 41,436 non-employee residents in Kurashiki-city.  
Iguchi Y et al  
Circ J. 72(6):909-13

>40 メタボリックシンドローム(Mets)を有する者の心血管病発症の相対危険は男性で1.9、女性で1.7であり、Metsは脳卒中や虚血性心疾患など心血管病発症の有意な危険因子であった。さらに、Metsに他の危険因子が合併すると心血管病のリスクが相乗的に上昇した

【久山町研究2009 Update】メタボリックシンドロームと心血管病  
二宮利治、他  
医学のあゆみ 228:285-288

>45 LDL-Cレベルが120mg/dl以上の女性ではそれ未満群に比べて死亡率が低かった

2008 日本人では低LDL-コレステロールで死亡率が上昇する  
大榎陽一  
臨床栄養 113:10-11

>45 椎体骨折は総死亡、心疾患関連死亡に関係する

2008 一般住民集団における脊椎骨折と心血管疾患死亡、総死亡の検討  
小山宏子、他  
Osteoporosis Japan 16:47-49

50歳以上人口の多寡が急性心筋梗塞発症率に与える影響 札幌市居村上弘則、他  
2007 50歳以上の人口の多寡が急性心筋梗塞発症率に与える影響 札幌市居村上弘則、他  
住者での疫学的検討  
Journal of Cardiology 50:167-17

30-65	64歳未満では全ての死亡に対し心房細動の寄与率が高い	Mortality Risk Attributable to Atrial Fibrillation in Middle-Aged and Elderly People in the Japanese General Population: Nineteen-Year Follow-up in NIPPON DATA80	Ohnawa M, et al	Circulation Journal	71:814-819
>50	臨床疫学的観察研究によれば、高齢者および閉経後女性では、骨粗鬆症の程度と動脈硬化・血管石灰化、あるいはそれを基盤とする疾患との間に関連性が指摘されている	2007 骨粗鬆症と動脈硬化・血管石灰化	大村寧	Clinical Calcium	17:346-353
>45	女性高血圧患者ではBMIが左室重量係数の独立決定因子となる	Sex-Related Differences in the Relations of Insulin Resistance and Obesity to Left Ventricular Hypertrophy in Japanese Hypertensive Patients	Shigematsu Y, et al	Hypertension Research	29:499-504
>45	急性心筋梗塞の死亡率は女性の方が男性より高い	Increased Cardiac Mortality in Women Compared with Men in Patients with Acute Myocardial Infarction	Kanamasa K, et al	Internal Medicine	43: 911-918
>45	女性の虚血性心疾患は閉経後に増加男性に比較して重症になりやすい	2004 成人病と生活習慣病	河野宏明		34巻12号 Page1555-1561
45-67	加齢、女性、肥満、膝内反変形、thrust現象が内側型膝OAと関連する	2006 変形性膝関節症 発症、予防、治療法の選択 疫学調査から見た内側型変形膝関節症の発症要因	大森豪、他	日本整形外科学会雑誌	80(12):927-932
<65	日本の女性労働者は職業上の重圧と不安について男性よりも大きな職業分類勾配がある	2004 Occupational Class and Exposure to Job Stressors among Employed Men and Women in Japan	Kawakami Net al	Journal of Epidemiology	14巻6号 Page204-211
>55	女性55歳以上では女性55歳未満及び男性55歳以上と比較して酸化ストレスの指標である8-OHdG-スボットは有意に高値を示した	2003 加齢と酸化ストレスとの関連について スボット尿中8-OHdG測定を用いた検討	赤尾弥香、他	日大医学雑誌	62巻6号 Page302-308
>55	口腔状態の客観的評価によらず、口腔に関する不健康感、全身の主観的健康指標や社会環境要因と独立して、抑うつスコアの高値と関連する	2008 中高齢者の抑うつに関わる歯科的要因:大迫研究	大井孝、他	老年歯科医学	23巻3号 Page308-31
>50	骨粗鬆症の予防には若年期からの運動、栄養面での対策が必要	2005 栄養と運動は骨粗鬆症予防に役立つか 栄養改善による骨粗鬆症の予防 長期コホート研究の結果から	吉村典子、他	Clinical Calcium	16巻1号 Page103-109

50-	1人平均現在歯数は50~54歳では25.1本で、この年齢以降は常に男性より少ない。	2005	平成17年歯科疾患実態調査	厚生労働省
55-	20以上の歯を有する者の割合は55~59歳で、80.7%で、この年齢以降は常に男性より低い。	2005	平成17年歯科疾患実態調査	厚生労働省
>50	鶴見大学歯学部附属病院ドライマウス専門外来を受診した患者の男女比は17:83であり、男女とも50歳代から受診者数が増加し、女性では60歳代、男性では70歳代の受診が最も多かった。	2007	ドライマウスにおける加齢の関与	山本 健他 老年歯科医学 22巻2号、p.106-112
45-55	就業形態は更年期症状に影響する	2009	中高年女性の就業形態と更年期症状の関連	宮内清子他 母性衛生 49巻4号 Page433-44
19-64	ベジタリアンの女性は非ベジタリアン女性に比べ、収縮期血圧と血清トリグリセロールが有意に低かった	2008	Nutritional Characteristics of Middle-Aged Japanese Vegetarians	Nakamoto K et al Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 15巻3号 Page122-129
50-67	Li-テアニン摂取により起床時の疲労回復感が良好となる	2008	閉経後の中高年女性に対するLi-theanineが睡眠時の自律神経活動に及ぼす影響	小関誠、他 日本生理人類学会誌 13巻3号 Page147-154
>45	尿失禁の有訴率は高く、とくに女性では40歳代でもすでに多くが抱えている問題である	2008	中高年者における尿失禁に関する調査	道川武敏、他 日本公衆衛生雑誌 55巻7号 Page449-455
40-80	40歳代の女性ではセクシュアリティにおいて従来の文化・社会的性差意識に囚われない動きが窺われた	2008	中高年におけるセクシュアリティとジェンダー	堀口貞夫 産婦人科治療 97巻1号 Page18-27
40-70	運動や食生活などの生活習慣の改善は身体組成や体力、歩行数血圧などに好影響を及ぼす	2007	生活習慣の改善が身体組成・体力・歩行数・血圧に及ぼす影響	作山正美、他 岩手医科大学 共通教育研究 42号 Page107-115 年報
40-60	乳がん検診に対する意識は健康教育プログラム受講後、有意に高まった	2008	中高年女性における乳がん・子宮がん検診受診行動および健康増進行動の実態と健康教育プログラムの効果に関する研究	波崎由美子、他 福井大学医学部研究雑誌 8巻1-2 Page31-39
19-79	心房細動は64歳以下において脳卒中死、心血管死及び全死の原因による死亡のハザードを上昇させる。	2007	Mortality Risk Attributable to Atrial Fibrillation in Middle-Aged and Elderly People in the Japanese General Population: Nineteen-Year Follow-up in NIPPON DATA80	Ohsawa M et al Circulation Journa 71巻6号 Page814-81

45-65	農村部の中高年女性の(28.4%)でSMMI得点において更年期症状の「受診を要する」「精密検査を要する」「長期治療を要する」に該当していた	2007	農村部における中高年女性の更年期症状の発現割合とQOLの実態	島明子	更年期と加齢のヘルスケア	6巻1号 Page26-31
45-79	運動習慣のない中高年女性では、栄養素等摂取不足が起こる確率が高い	2006	中高年女性における運動習慣の有無と食事摂取状況との関連(2) 栄養素等摂取状況	大関知子、他	Journal of Rehabilitation and Health Sciences	4巻 Page27-30
40-69	対照BMI群(22.0~24.9kg/m <sup>2</sup> )に比べて、低BMI群(<18.5kg/m <sup>2</sup> )の女性は原因を問わない死亡HRが3.14であり、また高BMI群(28.0~4kg/m <sup>2</sup> )の女性の死亡HRは3.25であった	2005	Body Mass Index and Mortality in a Middle-aged Japanese Cohort	Hayashi R. et al	Journal of Epidemiology	15巻3号 Page70-77
>55	女性では加齢とともに高脂血症の割合が増加し、55歳代では対象者の約60%を占めていた	2005	健康診断結果にみる中年期男女の疾病複合に対するBMI相対リスク比の比較	川野因、他	肥満研究	11巻1号 Page30-37
<65	65歳未満の閉経後女性 75歳未満の中高年男性においては、骨粗鬆症・骨折のリスク要因を持つ人について、骨粗鬆症検診は有益と考えられる	2005	骨折・骨粗鬆症の2次予防についてのエビデンスに基づく勧告	藤原佐枝子	Clinical Calcium	15巻6号 Page1319-1323
40-60	一般健常女性でも記憶力低下、髪の毛の減少、物忘れなどの症状を持つ。一方、更年期外来患者では全身倦怠感と肩こりが代表的な症状である	2005	Status of climacteric symptoms among middle-aged to elderly Japanese women: Comparison of general healthy women with women presenting at a menopausal clinic	Ikedai T	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	31巻2号 Page164-171
40-84	加齢に伴う平均保有歯数は40歳代では男27.6本、女27.5本であったが、80歳代では各々12.0本、10.5本で、年代の上昇に伴って減少した	2004	中高年者の口腔所見に関する研究	豊田英喜、他	日本未病学会誌	10巻1号 Page100-102
40-79	女性は老性自覚がうつ症状と相関を示す	2004	地域在住の中高年者の抑うつに関する要因 その年齢差と性差	坪井さとみ、他	心理学研究	75巻2号 Page101-108
45-64	便通状態は睡眠健康と関係し、便通状態の悪化度が高まると睡眠健康も悪化する傾向が示唆された	2004	首都圏の女性を対象とした睡眠健康と便通状態の関係についての調査	小野茂之、他	日本生理人類学会誌	9巻1号 Page15-21
>40	40-74歳の女性では20%がメタボリックシンドローム予備群がいしは強く疑われる群である	2005	平成16年国民健康・栄養調査結果 厚生労働省		Osteoporosis Japan	16巻1号 Page40-44
19-79	骨粗鬆症の発生率は男性よりも女性に約7倍多く、部位によって年齢別発生率に違いが見られた	2008	骨粗鬆症の発生率と骨代謝マーカー、内因性ホルモンの関連 漁村コホート10年間の追跡	吉村典子、他		

47-77	花粉症発症には花粉への曝露の他に様々な修飾要因が関わっている	2007	群馬県中高年を対象にした花粉症に関連する要因についての横断研究	橋本由利子、他	日本公衆衛生雑誌	54巻11号 Page 792-804
成人	骨粗鬆症による骨折の危険因子としては低骨密度に加えて、骨密度と独立した危険因子として年齢(高齢)、性(女性)、骨折の既往、喫煙、飲酒、ステロイド使用、骨折家族歴、運動(予防)、やせがあげられた	2007	骨粗鬆症理解のための基礎 骨粗鬆症の疫学 有病率、発生率、危険因子	吉村典子	医学のあゆみ	221巻1号 Page 24-30
53-77	主観的幸福は男女とも中高年の死亡率の信頼できる予測因子である	2006	Subjective well-being as a predictor of all-cause mortality among middle-aged and elderly people living in an urban Japanese community: A seven-year prospective cohort study	Iwasa H et al	Geriatrics & Gerontology International	6巻4号 Page 216-222
成人	日本人の食習慣は特に女性において心疾患危険因子と関連している	2008	Dietary patterns and levels of blood pressure and serum lipids in a Japanese population	Sadakane A et al.	J Epidemiol.	18(2):58-67
成人	喫煙と高血圧症は心疾患の死亡の大きな要因である	2007	High blood pressure in middle age is associated with a future decline in activities of daily living. NIPPON DATA80.	Hozawa A et al	J Hum Hypertens.	30:1169-1175
成人	女性では男性と比べ糖尿病はより強い冠動脈イベントの危険因子となる	2007	【J-LITを総括する】脂質管理における性差の評価	佐々木淳	The Lipid	18:147-152
成人	職務ストレスは職場支援は栄養摂取と関連が低い	2006	Job Strain, Worksite Support, and Nutrient Intake among Employed Japanese Men and Women	Kawakami N et al.	Journal of Epidemiology	16:79-89
成人	蛋白尿はその他の心血管系疾患危険因子と比べ、心血管系死の独立した危険因子となる	2005	Proteinuria is a Prognostic Marker for Cardiovascular Mortality: NIPPON DATA 80, 1980-1999	Tanihara S	Journal of Epidemiology	15:146-153
成人	不規則な食生活は収縮期血圧を上昇させる	2005	Effects of Diets on Serum Lipids,Fatty Acids and Blood Pressure Levels in Male and Female Japanese University Students.	Umemura U, et al	Environmental Health and Preventive Medicine	10:42-47
成人	女性ではHDL-Cの減少が心筋梗塞発症に影響する	2006	藤沢市民の血清脂質調査(第2報) Fujiisawa Study 2004 心筋梗塞の性差について	神谷正見、他	日本臨床内科医会誌	20:571-57

成人	2005年内科学会のMS診断基準での一般住民でのメタボリックシンドロームは、男性17.6%,女性5.5%であった	メタボリックシンドロームの理解に必要な最新研究動向(疫学) 端野・辻 斎藤重幸、他 警町研究	医学のあゆみ	217:75-79	
>40	女性では循環器疾患の既往が直腸癌発生に関連する	Medical History of Circulatory Diseases and Colorectal Cancer Death in the JACC Study	Watanabe Y,	Journal of Epidemiology	15:S168-S172
>45	女性では左室形態と尿酸値に関連が無い	Sex-Related Differences in Relations of Uric Acid to Left Ventricular Hypertrophy and Remodeling in Japanese Hypertensive Patients	Kurata A. et al.	Hypertension Research	28:133-139
成人	SDSの得点が高い人は低い人に比べて全脳卒中の発症の相対危険度が約2倍、脳梗塞発症の危険度が約3倍、虚血性心疾患の相対危険度が約7倍であった	不安どうつの心身医学 不安、怒りうつ症状と循環器系疾患との関連についての前向き疫学研究		心身医学	44巻5号 Page335-34
成人	全国で男性1,240万人、女性1,840万人、総計3,080万人が膝の、男性1,770万人、女性1,530万人、総計3,300万人が腰椎の変形性関節症であると推定された	メタボリックシンドロームと変形性関節症	吉村典子	骨粗鬆症治療	6(2):117-121
成人	女性ではIMPSで測定されたストレスコアと眼圧との間に正の相関が認められた	The Relationship between IMPS-Measured Stress Score and Intraocular Pressure among Public School Workers	Yamamoto K et al	Journal of Physiological Anthropology	27巻1号 Page43-50
成人	血中25-hydroxyvitamin Dを指標とした調査によれば、日常生活動作(ADL)レベルの低いものは年齢に関係なくビタミンDの栄養状態が不良であり、ビタミンD低下症の有病率も高い	Seminar 日本人におけるビタミンD摂取と血中25-hydroxyvitamin D	中村和利	Clinical Calcium	15巻9号 Page1483-1488
成人	歯周病を持つ患者は健康者より有意にTBARSが高かった	歯周病と過酸化脂質	園木一男、他	総合臨床	56巻10号 Page2832-2836
成人	高血圧治療が普及し脳卒中発症率は低下したが、肥満、耐糖能異常、脂質異常症など代謝性疾患の増加によって脳梗塞発症率の低下傾向は鈍化し、脳梗塞病型が欧米化しつつある	心血管病の時代的変遷とそれにかかわるリスク因子	今村剛、他	医学のあゆみ	228巻4号 Page267-271
>45	腹圧性および切迫性尿失禁を含めると、女性の約70%に尿失禁がみられた	看護研究 尿失禁に関する頻度及び意識調査を実施して 健康推進員と一般住民との比較検討結果	梶本まどか、他	Urological Nursin	8巻12号 Page1213-1217

>40	CPITN 3以上の歯周病は男性の44%、女性の14%で認められた。CPITN値は男性では喫煙の有無、女性では肥満の有無で有意差が認められた。	2003	中高年前の勤労者における生活習慣と歯周病	高田康光	大阪医学	37巻1号 Page11-15
>40	女性90cm以上の者は、血中脂質、血圧、血糖のいずれかのリスクを2つ以上有する割合が高い。	2005	平成16年国民健康・栄養調査結果	厚生労働省		
>65	定期的に運動を行っている女性のHDL-C値も男性より有意に高い。高齢女性では男性とは異なり、HDL-C値の低下は冠動脈疾患の主要な危険因子ではない。	2006	Gender Difference in the Level of High-density Lipoprotein Cholesterol in Elderly Japanese Patients with Coronary Artery Disease	Musha H, et al	Internal Medicine	45:241-245
>65	高齢女性の36.5%にX線の変形性膝関節症が認められた。BMI高値、BMD高値はX線の変形性膝関節症のリスク因子となる。	2008	Prevalence and risk factors for knee osteoarthritis in elderly Japanese men and women	Sudo A, et al.	Journal of Orthopaedic Science	13(5):413-418
>60	舌痛みは60歳代の女性に多い。	2008	舌痛症50例の臨床的研究、	茂木敏雄、	共済医報	57(3号):261-265
55-75	口腔健康状態がよい(よい、まあよい)者の割合は、男性の方が女性より有意に高かった。	2006	口腔保健状況の疫学調査、口腔の健康の自己評価に関連する要因について	品田佳世子他	口腔衛生学会雑誌	56巻4号、p.497
55-75	(喫煙者は男女共に、非喫煙者と比較して、歯周疾患有病のリスクが有意に高いことが判明した。)	2006	口腔保健状況の疫学調査 歯周疾患と関連する要因について	柳澤智仁他	口腔衛生学会雑誌	56巻4号、p.498
55-75	男性の方が女性に比べ口臭の認められる場合が多かった。	2006	口腔保健状況の疫学調査 口臭と関連する要因について	植野正之他	口腔衛生学会雑誌	56巻4号、p.499
40-79	女性において1日の果物摂取量が200g以上の群は200g未満群に比べて[空腹時血糖][HbA1c]が有意に低値であった。	2008	地域在住中高年者の耐糖能と果物摂取量に関する横断的検討	安藤富士子、他	日本未病シニア学会雑誌	13巻2号 Page341-343
45-79	社会貢献度は女性では身体機能尺度と情緒適応尺度が有意に改善させる。	2008	地域中高年者が社会貢献性のある役割を新たに獲得することによる健康関連QOLの変化 予備的検討	今井忠則、他	茨城県立医療大学紀要	3巻 Page83-90
>65	65歳以上では運動の有無に関係なく咀嚼能力は低下するが、食生活への影響は少ない。	2005	運動習慣を実施している中高年女性の咬合力と握力および栄養摂取状況について	内藤祐子	国士館大学体育研究所報	23巻 Page13-1
>60	20歳以上の女性の17.4%は睡眠薬などを使用しているが、高齢者ほど使用頻度が高く、60-69歳では急増する。	2008	平成19年国民健康・栄養調査結果	厚生労働省		
>55	カルシウム摂取量は著しく低い。	2004	高度高齢化地域の中高年の体力・身体特性と問題点	渡部かなえ、他	公衆衛生	68巻5号 Page404-406

80-

20本以上の歯を有する者の割合は、80歳～84歳で男性が29.9%、女性は15.4%、85歳以降は男性が11.5%、女性は6.5%である。

2005

平成17年歯科疾患実態調査 厚生労働省

65-75

20歳以上有する者の割合は、男女とも65歳～75歳では歯磨き指導を受けた経験者が有意に高かったが、特に女性では経験者が51.5%、未経験者が25.6%と2倍の差が認められた。

2006

口腔保健状況の疫学調査 現在歯数と歯科保健行動との関連について 森 千里他

口腔衛生学会 56巻4号、p.496  
雑誌

表2: 年齢毎の各疾患の発症予測値

	発生率 (95%信頼区間)	30-34歳 ～ 35-39歳	35-39歳 ～ 40-44歳	40-44歳 ～ 45-49歳	45-49歳 ～ 50-54歳	50-54歳 ～ 55-59歳
高血圧	3.60(3.17, 4.04)	2.06	3.54	8.39	13.31	13.33
心筋梗塞	0.05(0.00, 0.10)	0.04	0.02	0.12	0.22	0.1
狭心症	0.35(0.20, 0.50)	0.23	0.17	0.79	1.63	2.29
くも膜下出血	0.07(0.00, 0.15)	0.05	0.07	0.03	0.19	0.6
脳出血	0.03(0.00, 0.10)	0.01	0.07	0.03	0.1	-0.05
脳梗塞	0.08(0.00, 0.17)	-0.07	0.23	0.16	0.66	0.61
一過性虚血発作	0.27(0.09, 0.44)	0.12	0.29	0.39	0.25	2.38
静脈血栓症/ 肺静脈血栓症	0.14(0.00, 0.29)	0.14	0.33	0.01	0.06	0
下肢動脈血栓症	0.07(0.00, 0.18)	0	0.08	0.29	0.02	0.02
糖尿病	0.82(0.59, 1.05)	0.42	0.97	1.63	2.48	4.11
甲状腺疾患	1.96(1.38, 2.54)	2.01	2.77	1.69	0.84	1.22
脂質異常症	5.59(4.90, 6.27)	2.78	4.65	6.49	20.12	20.97
胆石	1.72(1.35, 2.09)	1.57	2.05	1.65	1.67	2.27
肝炎	1.91(1.41, 2.41)	1.2	2.16	2.19	3.71	2.25
子宮内膜症	0.93(0.28, 1.59)	1.34	1.7	1.6	-1.77	0.1
子宮筋腫	7.72(6.92, 8.53)	7.19	8.74	10.15	6.58	1.02
子宮頸癌	0.25(0.00, 0.54)	0.66	0.26	0.12	-0.32	-0.03
子宮内膜癌	0.12(0.02, 0.22)	0.18	-0.01	0.28	-0.18	1.37
卵巣癌	0.07(0.00, 0.20)	0.24	-0.05	0/29	-0.38	0.07
良性乳腺腫瘍	1.18(0.65, 1.72)	1.78	1.04	2.14	-1.07	0.35
乳癌	0.56(0.35, 0.77)	0.31	0.74	1.09	0.93	1.11
胃癌	0.31(0.17, 0.46)	0.23	0.53	0.22	0.86	-0.13
直腸大腸癌	0.15(0.07, 0.23)	0.11	0.14	0.47	0.68	0.22
骨粗鬆症	0.50(0.28, 0.72)	0.07	0.59	0.34	2.95	5.18

# : per1000women per year

マイナス値は5年区切りの年齢で診断された頻度がその後の5歳間で診断された頻度に比べて低いことを意味する

表3 普及啓発における課題

	課題名
20-44	検診率を上げるためには、がんの知識の普及啓発や財政的な支援が望まれる。
20-44	がん治療後に社会復帰を果たした人(いわゆる「がんサバイバー」)を啓発活動にとりこむことも良い。
45-59	がん治療後に社会復帰を果たした人(いわゆる「がんサバイバー」)を啓発活動にとりこむことも良い。
15-20	成人だけでなく、学校教育におけるがんの普及啓発活動が必要である。
15-20	若年者への栄養摂取等の普及啓発は、思春期の体づくりという観点からだけでなく、月経関連障害やリプロダクションといった観点から行うことも必要である。
20-44	女性の健康づくりには、男性の理解を深めることもできるように実施する必要がある。
45-59	女性の健康づくりには、男性の理解を深めることもできるように実施する必要がある。
20-44	月経前緊張症や月経痛の知識を普及啓発する必要がある。
20-44	医療従事者・一般女性の更年期に関する認識不足が複数科受診(ドクターショッピング)の原因のひとつである。
45-59	医療従事者・一般女性の更年期に関する認識不足が複数科受診(ドクターショッピング)の原因のひとつである。
20-44	女性ホルモンを補充することで予防できる疾病もあることを普及啓発する必要があるのではないか。
45-59	女性ホルモンを補充することで予防できる疾病もあることを普及啓発する必要があるのではないか。
20-44	内科医に対し更年期の知識を普及啓発する必要がある。
45-59	内科医に対し更年期の知識を普及啓発する必要がある。
20-44	ワーク・ライフ・バランスに関して、普及啓発する必要がある。
45-59	ワーク・ライフ・バランスに関して、普及啓発する必要がある。
20-44	思春期、妊娠・出産時、更年期におけるエストロゲン分泌量の変化や加齢に伴う変化、それらへの対処法等の適切な情報を国民や医療関係者に普及啓発する必要がある。
45-59	思春期、妊娠・出産時、更年期におけるエストロゲン分泌量の変化や加齢に伴う変化、それらへの対処法等の適切な情報を国民や医療関係者に普及啓発する必要がある。
45-59	女性センターや保健所等における更年期に関する相談窓口を充実する必要がある。
45-59	地域医療の枠組みの中(地域の医師会や保健所など)で、更年期症状をサポートできる仕組みを考える必要があるのではないか。
20-44	既にある地区組織や婦人会等を活性化させ、市町村や若年者も予防活動に組み入れるような魅力ある活動をしていく必要がある
45-59	既にある地区組織や婦人会等を活性化させ、市町村や若年者も予防活動に組み入れるような魅力ある活動をしていく必要がある
60-	既にある地区組織や婦人会等を活性化させ、市町村や若年者も予防活動に組み入れるような魅力ある活動をしていく必要がある